



港区立高松中学校 学校だより<第10号>

平成29年2月6日 校長 鋳持 利行

創立1949年(昭和24年)

<高松中生のあたりまえ>推進校

港区高輪1-16-25

「誇り」

校長 鋳持 利行

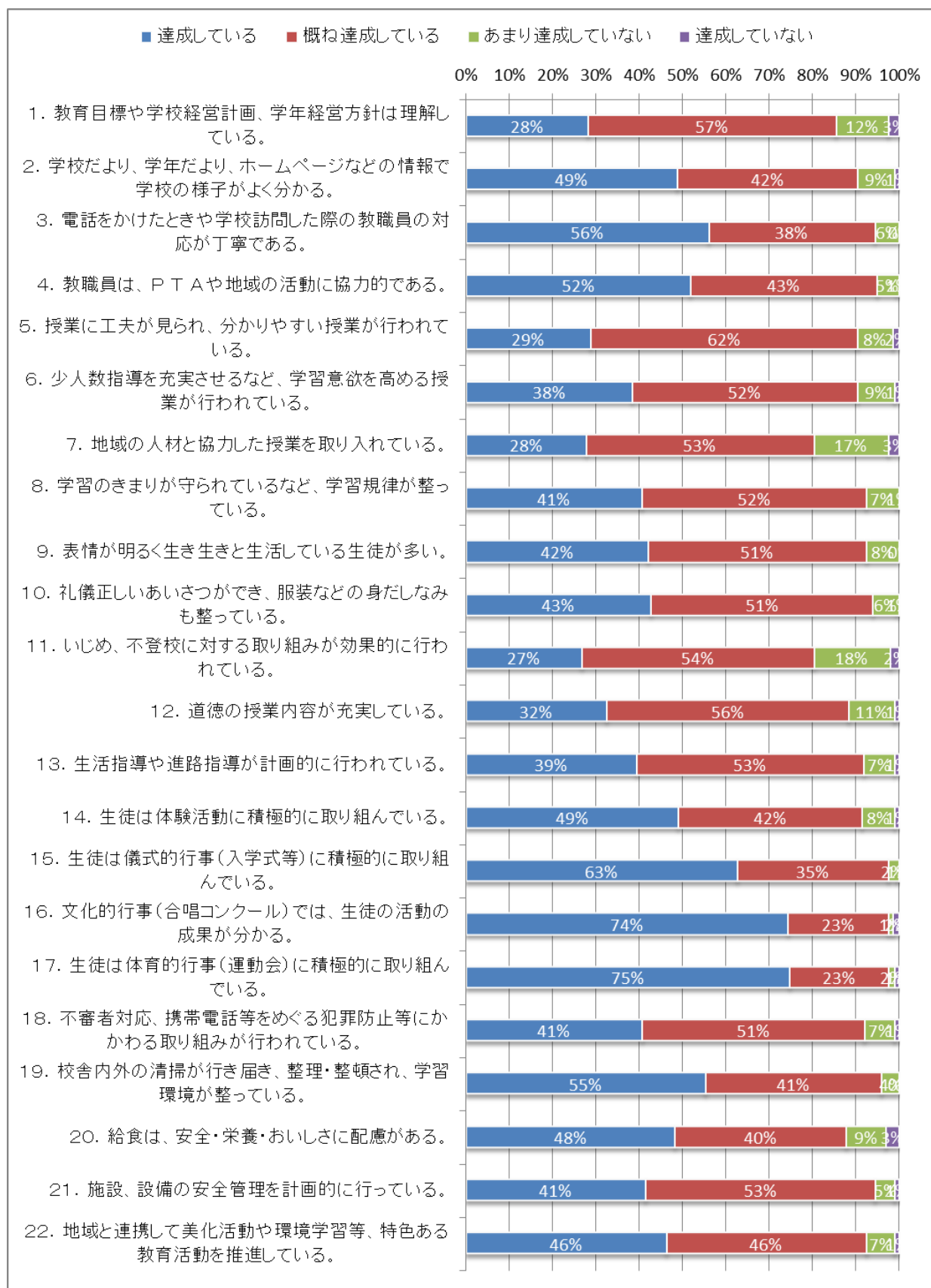
2月に入り、今年度も残すところ後1ヶ月余となりました。立春(2月4日)は過ぎましたが、まだまだ寒い日が続きます。体調には十分注意し、健康な生活が送れるよう努めましょう。二十四節気の一つで、立春の後の約15日後の18日が『雨水』に当たります。雪が雨に変わり、雪や氷が溶けて水となるころなので、こう呼ばれました。また、冬型の気圧配置が崩れるころで太平洋側や関東でも大雪が降るのがこの頃です。北国ではまだ雪が深いですが、農家では農耕の準備に入ります。

冬休みに石川県の能登に出かけた時、そこで乗ったタクシーの運転士さんの話が心に残りました。能登は遥か昔から、海による交易で栄えた土地で、繁栄を極めた江戸時代には、「北前船」と呼ばれる交易船を操って、当時、経済の中心地だった大阪・京都と商いを繰り返し、巨万の富を築いたこと。次第にその文化は、大阪や京都のそれへと近づき、港町には町屋づくりの家々が連なる景色が広がったことや、交易の中心が鉄道や道路へと移った今は、辺境の地と見なされる能登だが、その歴史が刻まれた数々の遺産が残っていることなどを熱心に話してくれました。その話を聞き、今、自分がその土地でタクシーの運転士として働いていることを自慢できることは、本当に素晴らしいことだと思いました。私は「果たして自分が住んでいる地域や勤めている高松中についてタクシーの運転士さんのように自信をもって言えること、誇りに思えるものに何かあるだろうか」と考えました。同時に、高松中の生徒は「どんな自慢できるものを持っているだろうか。一つでも多く誇りに思えるものをもって欲しい」と思いました。何事においても自分に自信を持つことは、さらなる挑戦や次へのステップに向けた意欲につながります。自分自身や学校、地域に誇りをもつことができることは、自分をより強く大きくしていくと思います。

毎日の生活の中で、授業はもとより学級での係や委員会活動などの責任を果たすことや部活動などに真剣に取り組むことが、自分の自信や得意分野となり、クラスの自慢、学校の誇りにつながっていきます。今年度も、学校生活の中で数多くの貴重な経験を積み重ねてくることのできたはずです。その一つ一つを、自分自身の自信や誇りにつなげていって欲しいと思います。特に、3年生は義務教育9年間・中学校生活3年間でしっかりと振り返り、そのことを新たなスタートへの糧にしていってください。

ご家庭でも、お子様のこの一年間の成長ぶりを確認していただき、自信や誇りにつながるよう、見守り励ましていただければと思います。

平成28年度学校評価アンケート集計結果 回収率82.5%



学校評価アンケートへのご協力並びに多数のご意見、ありがとうございました。集計結果と保護者の皆様のご意見は、今後の教育活動に生かしてまいります。